INTERVIEW

キャリアならではのクラウド環境の実現で、新たな市場の創出を目指す

あらゆるものを安心・安全につなぐアーキテクチャをもとに独自のクラウドコンピューティング環境の具現化を目指すNTTコミュニケーションズ。NTTコミュニケーションズの先端IPアーキテクチャセンタ（以下、IAC）が目指す次世代クラウドコンピューティング構想“Setten（セッテン）”の取組み状況について、原 隆一所長にうかがった。

NTTコミュニケーションズ㈱
先端IPアーキテクチャセンタ
所長　原 隆一氏

新たな市場を生み出すための革新的な技術基盤の確立に注力

――昨年は、“あらゆるものをつなぐ”を基軸にした骨太開発方針に基づくR&D活動を展開されましたが、2009年の基本方針をお聞かせください。

原　先端IPアーキテクチャセンタ（Innovative IP Architecture Center）という組織名のInnovative（革新）は、環境の革新、新しいマーケットの創造のための技術開発を意味しています。現在、「事業ビジョン2010」の実現に向け、①環境の革新と新たな市場を生み出すための革新的な技術基盤の開発、②NTTコミュニケーションズの技術戦略立案、③お客さまとの共同開発研究の実施の3つを柱にR&D活動を推進しています。2008年は、利用者環境を革新するという観点から、「あらゆるものをつなぐ」ことを実現しサポートするために、7つの視点※1と5つの技術分野※2からなる骨太開発方針を打ち出して、取り組んできました。今年も、この基本方針に変わりはありません。

具体的には、「新たな市場を生み出すための革新的な技術基盤の開発」ということで、新たな収入基盤の開発とキャリアとしての基盤開発の2つを目指しています。前者は、徹底的にユーザオリエンテッドで安全なユビキタス環境、あらゆるモノがつながる環境での新しいサービスコンセプトとしてクラウドコンピューティング環境の実現を掲げており、後者はネットワークにつながるあらゆるモノのケアを行うという観点でのネットワークのサービス価値の再構築、さらには無瞬断、無中断の強靭なネットワークの実現です。

※1：①自分にとって役立つ情報／サービスを提供②いつでもどこでも迅速にいろいろな形でつながる③簡単につながる④品質が保証され正確につながる⑤ワンストップで端末レベルまでケアされる⑥強固なセキュリティ⑦つながり続けるネットワーク
※2：①検索・レコメンド技術②端末配信技術③ネットワーク技術④ケア技術⑤認証・セキュリティ技術

NTTコミュニケーションズのクラウドコンピューティング構想“Setten”

――ネットワーク上に拡散したICTリソースを使って、情報サービスやアプリケーションを提供するクラウドコンピューティングと、IACの考えるクラウドコンピューティングとの一番の違いはどこにありますか。

原　2008年春頃から、市場ではクラウドコンピューティングという言葉が喧伝され始めましたが、私どもでは、骨太開発で実現する新しいサービスコンセプトとして、NTTコミュニケーションズならではのクラウドコンピューティング構想“Setten”を打ち出しました。一般的に市場で言われるクラウドコンピューティングとの大きな違いは、雲（cloud）の上のサービスではなく、キャリアとして雲の中すなわちネットワークまで含めてトータルで安心・安全・高セキュリティ・高品質なシステムを提供します。しかも、お客さまの既存のブロードバンド環境を利用可能にしてさらなるコスト削減や高付加価値化を実現できるという点です。その際、当然のことながら固定・移動・グローバルを含め、ネットワーク環境はキャリアフリー／ロケーションフリー／デバイスフリーを実現しま

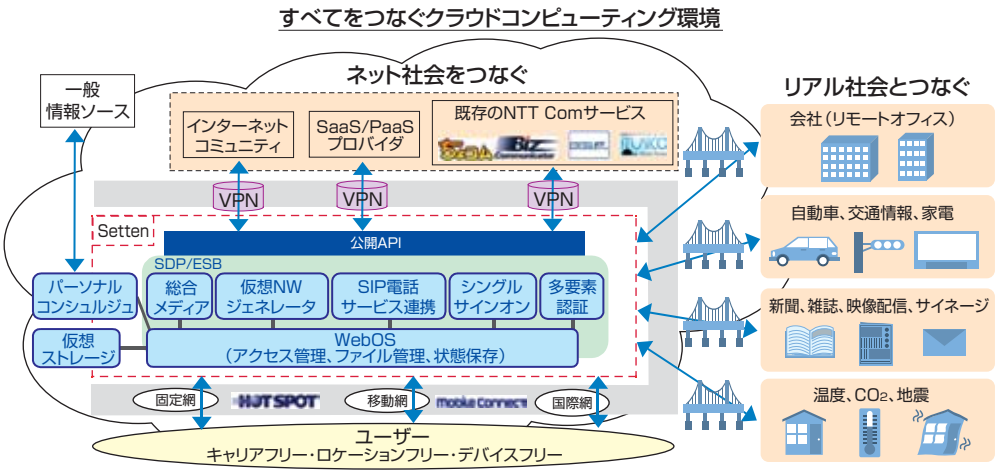

図１　骨太開発で実現する新しいサービスコンセプト“Setten”

す。つまり、物理的なネットワーク環境の上で、仮想的なネットワークを安心・安全に提供します。

――開発コードネーム“Setten”には、どのような想いが込められているのですか。

原　ネットワークを介して営まれるすべての活動の接続点であり、徹底的にお客さまの視点で安心・安全にあらゆるものをつないでサポートするサービスであるという点です。その実現には、本インタビューに続く各論の頁でご紹介するような骨太開発で取り組んでいる様々な要素技術をつなぐことが必要になります。例えば、物理ネットワークに依存せずにオンデマンドでVPNを構築する「仮想ネットワークジェネレータ」、複数の認証手段を組み合わせる「多要素認証」、さらにはサーバーサイドコンピューティング環境を実現する「WebOS」と、各種要素技術や各種外部アプリケーションなどあらゆるものをつなぐ核となる機能を提供するSDP（Service Delivery Platform）／ESB（Enterprise Service Bus）をSettenプラットフォームに集約し、お客さまが使いやすくマーケットへの対応も柔軟に行えるような形で提供いたします。

――すでに商用化されているSaaSプラットフォーム“BizCITY”とSettenの関係は…。

原　SettenはBizCITYの３年後の姿につなげて行きたいと思っています。

Settenの実現で新たな市場・ビジネスモデルの創出を目指す

――Settenを基盤に貴社が目指すクラウドコンピューティングについてお聞かせください。

原　Settenの出口（商用化）には３つの提供形態があると思っています。1つは、大企業様向けに既存のプライベートネットワークを利用したプライベートクラウドコンピューティング環境構築のSI用にパッケージ化して提供する。２つ目は、SME（中堅中小企業）やSOHO向けに、SaaSアプリケーション付きのネットワークサービスとして提供する。３つ目は、最終ターゲットであるコンシューマ向けの一段階前のパートナーとの水平連携によるBtoBtoCモデルです。情報バンクを利用したパーソナルコンシュルジュサービスなど、コンシューマ向けの面白いサービスが考えられます。いずれにしましても、すでに投資したお客さまの資産を有効活用し、新たな投資を極力抑えながら企業内だけでなくパートナーや顧客との連携を深めることができるクラウドコンピューティング環境を実現し、しかも仮想化された環境をワンストップでマネージメント・オペレーションする。これにより、新たな市場・ビジネスモデルの創出を目指しています。

――最後に、今後の展開についてお聞かせください。

原　Settenの具現化に向け、必要な技術要素が揃うのが2009年春の予定です。2009年の春からSettenに興味を持っていただいているお客さまと共同でフィールドテストを実施し、その結果をフィードバックして、マーケットへの対応の柔軟性（機能のラインナップ化）と運用の効率化（オペレーションとの連動）を図ったうえで、2009年度の第三四半期には商用化できればと考えています。

――本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）